

学生との協働で目指す
新たな団地のあり方



町田山崎団地自治会
会長 吉岡栄一郎さん
みんなの広場日替わり店長 岡田美和子さん

The Machibito — Chitki ni Ikiru

今、町内会・自治会の存在が
大きくクローズアップされている。
それは、阪神・淡路大震災と東日
本大震災、この2つの大規模震災
のときに町内会・自治会が重要な
役割を果たした事例が多く報告
されているからだ。

町田市にある町内会・自治会の
総数は現在310。加入世帯率
は約54%で、どの町内会・自治
会にも課題が山積している。特に
団地というロケーションでは、高
齢化や独居高齢者、空家、そして
建物の老朽化といった課題は更に
顕著だ。そんな団地の活性化に、
新たな取り組みで向き合う町田山
崎団地自治会の事例を伺った。

総 戸数約3900戸の山崎団地
は町田市でも「二の大型団
地。昭和43年に入居を開始し、最
盛期に住民は1万人を超えたが、
現在では600戸が空き、自治会
の加入率も50%を割っている。平
成25年から3年間、国内の団地で
初となるヤギによる除草の実証実
験が行われた」ことでも有名だ。

会 長の吉岡さんは今年で就任11
年目を迎える。団地が出来た
ほぼ同時期から居住し、活動に参
加するようになったのは25年ほど
前からだという。
「同じ団地に住む全ての人たちが
住みやすく、そして快適に暮らせる

ように」と思って頑張っていますよ。
実現できていないけど、やりたいこ
とはまだまだ沢山あります。団地
も高齢化が進んできて、買い物して
も帰るのが大変だったり、バス
停までの移動さえ億劫な方も増
えています。そんな人たちのため
に、ゴルフカートのような移動手段
が導入できたらいいんじゃないか、
とか。ただ、人の問題、お金の問題
など課題は山のようにあって、試行
錯誤しながらやっています。実は

今年、名店会と自治会が1年おき
に開催していた夏祭りを初めて合
同行うことになって、今、計画の
真っ最中です。住民の皆さんからの
リクエストもあって、それに応える
形で開催することになりました。」

3 月4日・5日の両日、団地を
管理する独立行政法人都市
再生機構（UR都市機構）と協働
で開催した「DANCHEI
Caravan」は、今年で3回
目となる防災イベントで、2日間で
960名もの来場者があった。災
害時を想定したテントでの宿泊や、
水が十分に使えない状況下での調
理体験などの「団地deキャンプ」、
薪割りや火おこし体験、地震車や
煙ハウス、身の周りのものを緊急時
に役立てるワークショップなど、防
災を楽しく学べる新たな取り組み
に、団地外からも参加者が訪れた。

自 治会が地元の大学生と協働で
活性化に向きあう山崎団地。
もはや、彼らの力は欠かせないもの
となっていると会長も語る。少子
高齢化が進み、喫緊の課題を沢山
抱えている団地。そんな団地を、そ
して町内会・自治会を元気にする
キーマンは若い力であることは間
違いない。



夏 祭りにはズラリと夜店が並
び、近隣住民も大勢来場し、少
子高齢化が嘘のような賑やかな夜
となる。山崎団地では夏祭りだけ
でなく、数年前まで行われていた秋
の収穫祭、防災を目的としたイベン
トなどを行っているが、自治会の
様々な活動を全面的にサポートし
ているのは桜美林大学の学生たち
だ。平成25年に始まった「町田山崎
団地活性化プロジェクト」と称する
この取り組みは、少子高齢化の進む



A・災害時を想定し、テントが張られた団地内の広場 B・C・D桜美林大学の学生たちによる「子ども遊び」ブースには終日笑顔が溢れた C・キャンプファイヤーで盛り上がる参加者